



バクー観光案内

在アゼルバイジャン日本国大使館



旧市街

イチェリ・シェヘルと呼ばれ、アゼルバイジャン語で「内城」を意味する。干しレンガ造りの建物が並び、伝統的な町並みを見ることができる。

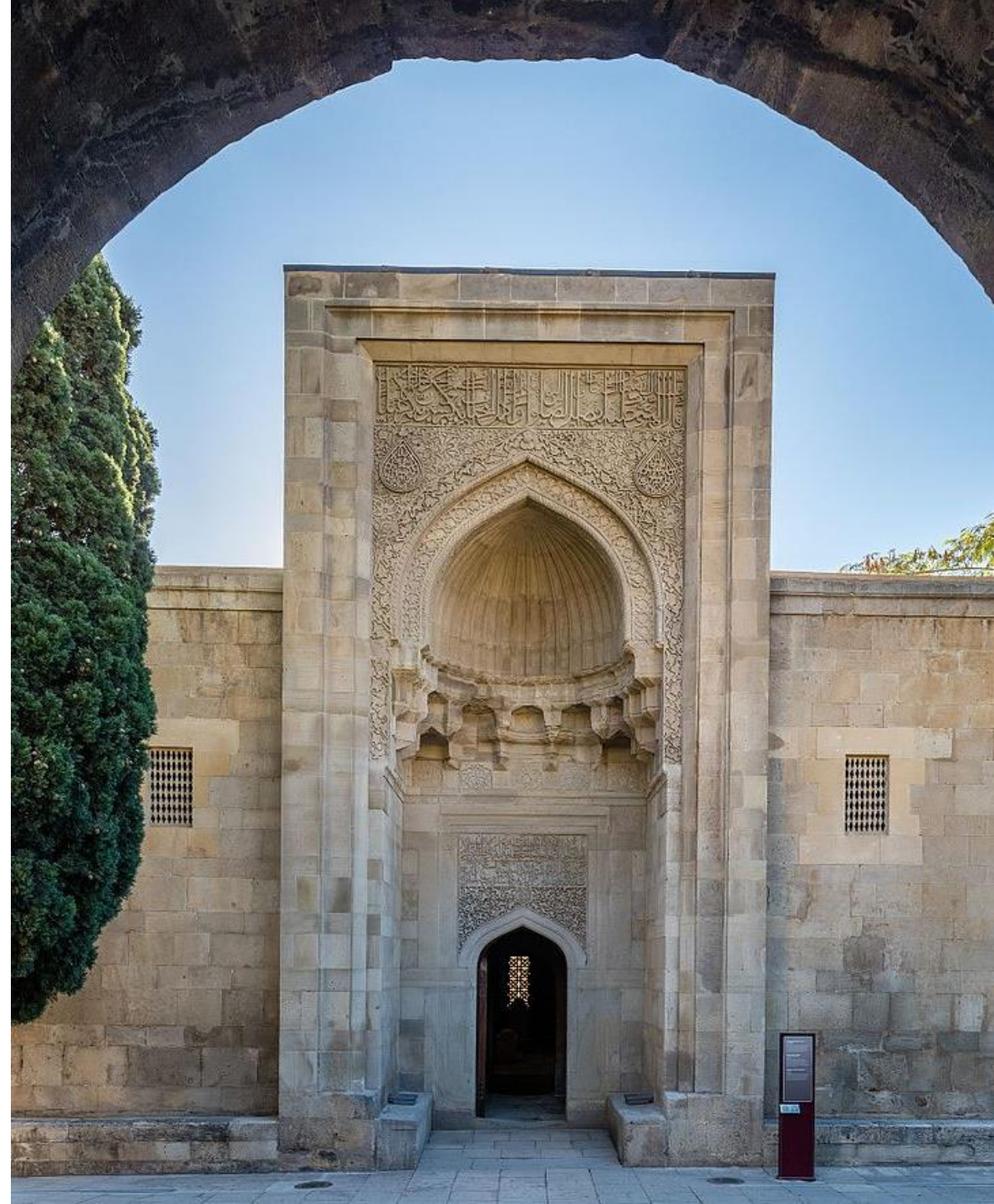
世界文化遺産であるシルバン・シャー宮殿や乙女の塔も旧市街内にあり、土産物店が建ち並ぶ。



シルバン・ シャー宮殿

旧市街一番の見所。

16世紀までこの地を支配したシルヴァン・シャー王朝の王宮。15世紀に建てられたが、1920年に改修され現在に至る。霊廟や浴場、謁見の間などを見ることができる。



乙女の塔

旧市街内の海岸に面した場所に建つ。

元は拝火教寺院の塔だったものが、要塞として12世紀に立て直されたものである。高さ30m、外壁は4-5mある。

名前の由来は諸説あるが、要塞の不落を祈願して名付けられた説が有力。

内部は小さな博物館となっており、屋上からはカスピ海が望める。



殉教者の小路

1990年1月20日のソ連軍侵攻（黒い1月事件）による犠牲者、及び、1991～94年のカラバフ紛争犠牲者の追悼モニュメントと墓地が並ぶ。

入口に花屋があり、献花（カーネーション）が絶えない。

付近は「山上公園」になっており、バクーの市街やカスピ海の眺望が素晴らしい。



フレームタワー

2012年に完成した3つのビル群。

アゼルバイジャンの国名が「火の国」の意味をもつことから、国のシンボルでもある炎をかたどったデザインになっている。

夜になるとライトアップされる。



ヘイダル・アリエフ・センター

前大統領の名を冠する施設。展覧会やコンサート等の会場となる。

ザハ・ハディド氏の設計で、上空から見るとヘイダル・アリエフ元大統領のサインの形になっているという。





絨毯博物館 (カーペット・ミュージアム)

海岸沿いにある博物館。各地方の伝統的な絨毯の他、現代のアゼルバイジャン・アート等10,000枚もの絨毯が展示されている。アゼルバイジャンの絨毯は2010年に無形文化遺産に登録されている。



燃える丘（ヤナル・ダグ）

バクー北25kmほどの地区にある。

石油採掘場近くにある小高い丘の地中で精製された天然ガスが地表の割れ目から噴出、自然発火することで、2000年間絶えることなく燃え続けていると言われている。

拝火教寺院

18世紀、バクーに承認として住んでいたゾロアスター教徒により建てられた寺院。かつては地表に湧く天然ガスが自然発火していた。

礼拝用の広場が中央にあり、石造りの僧房で囲まれた造りになっている。



ゴブスタン

バクー市西南約60km地点。

100km²にわたる無数の岩場・洞窟に石器時代（1万年前）の壁画が保存状態良く残されている。

2007年には世界文化遺産に登録された。

岩場の麓にある博物館では、壁画や当時の人々の暮らしなどに関する凝った展示が英語で説明されている。



ベシュ・バルマグ

バクー北100km弱の街道沿いにある
標高382mの岩山。

独特の形状からベシュ・バルマグ
（アゼルバイジャン語で「五本指」
の意）と名付けられた。

パワースポットやイスラム教の聖地
として有名。山頂にはモスクもあり、
カスピ海が一望できる。

